

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671000038		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム大山崎(1階)		
所在地	乙訓郡大山崎町円明寺稲葉1-5		
自己評価作成日	平成23年6月3日	評価結果市町村受理日	平成23年9月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo_kvoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2671000038&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階が、2階がではなく、ホーム全体で協力体制が整いつつある。また、地域との交流も増えてきている。(消防訓練や認知症サポーター講座など) また、事業所の理念として、お・と・く・にをなぞって謳い、職員、利用者が共に支えあうグループホームの雰囲気大切にしている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大山崎町で唯一のグループホームである当該ホームは、利用者が地域や職員と一緒に生活を楽しむという思いを込めて理念が作られ、利用者が重度化している中でも、その人らしい生活とは何かを考え、カンファレンスで話し合いながら実践しています。開所当初から地域とのコミュニケーションを大切に、日々の散歩の際等の挨拶やホームの行事に地域の方々に来てもらうことでホームの理解に繋げ、地域との良い関係が築かれています。ホームでの看取りの支援にも取り組み、段階に応じて家族や医師、職員等の関係者が、その利用者にとってどこで暮らすことが一番良いのかという視点で話し合いを重ね支援しています。管理者と職員はコミュニケーションをよくとり、活発な会議の中から提案や意見を出し合い、様々なことに取り組んでいるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をもとに、ホーム独自の理念を『おとくに』になぞって、地域性を取り入れた物を謳う。職員間で繰り返し確認し、実践につなげている	法人の理念の基、利用者が地域の中で職員と一緒に生活を楽しむという思いを込めて、ホーム独自の理念が職員の意見の中から作られました。利用者が重度化している中でも、その人らしい生活とは何かを考え、カンファレンスで話し合いながら実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームからは小学校の運動会に参加したり、地域行事のお祭りに参加したりし、地域からもボランティアさんに訪問いただいたり、近所の方に消防訓練にご参加いただいたり交流を大切にしている	地域の行事や祭りに参加したり、ボランティアの来訪、併設する施設に小学生が来る時に一緒に交流しています。開所当初から地域とのコミュニケーションを大切に、日々の散歩等の際の挨拶や行事等に地域の方々に来てもらうことでホームの理解に繋げています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座や長寿会での認知症勉強会を開催したりし、認知症の方への理解をすすめている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町職員、地域包括職員、民生委員、利用者、家族、GH職員が参加し、2ヶ月に1回開催している。ホーム、行政、地域との情報交換の場となり、サービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、町職員、地域包括支援センター職員等の参加を得て2か月に1回開催しています。ホームの状況や行事の報告を行い、参加者から質問や意見をもらい有意義な会議となっています。認知症サポーター講座の開催のきっかけとなったり、地域の行事への参加等に繋がっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や勉強会開催の打ち合わせなど、連絡を密に取り、事業所の実情なども相談している。乙訓地域全体のGH連絡会もある	町の担当者は相談しやすく、認知症サポーター講座のバックアップをしてもらう等協力関係が築かれています。手続き等で役場に行く時には、利用者も一緒に行きホームのことを知ってもらえるように努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員が身体拘束をしないケアを正しく理解し、ケアにとりくんでいる	法人内外の研修を受け、職員は身体拘束をしないケアについての理解を深めています。日々のカンファレンスで具体的にこのようなことが拘束に当たるのかを考え、ケアを振り返っています。また、玄関やエレベーター等には鍵をかけず、自由に外出できるように見守ったり、ドライブに出かける等の支援をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待防止の研修へ参加し理解し、虐待が見過ごされることがないように、注意を払い防止に努めている		

洛和グループホーム大山崎(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	1・2階とも後見人制度を利用されている方が居る。職員も研修などの機会があれば参加し制度について学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や退居時に不安や疑問がないか尋ね、ある場合は理解されるまで説明するようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や相談事はなるべく直接お聞きできるような信頼関係の構築に努めているが、直接言い難いときの為に意見箱設置や無記名でのアンケートを実施しており、頂いた意見は迅速に対応するよう努め、ホームの運営に反映させている	家族の来訪時や年に2回のアンケートの実施で、意見や要望を聞く機会を設けています。出された意見については職員間で検討し、個々に対応したり、アンケート結果の対応も含めて全家族に伝えています。法人の取り組みとして、家族が率直な意見が言えるようにアンケートの方法を検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや連絡ノートを活かし、職員の意見や提案を聞き入れる工夫をしている。また日頃から互いに話す機会を大切に、思いを知ることにも努めている。管理者は、現場の思いを会議などで伝えるようにしている	各フロアで職員会議を月に1回以上行い、様々な案を出し合いながら運営やケアに活かしています。活発な意見交換があり、実際に取り組んだことについて評価しながら、より良い方法について検討しています。年に2回個人面談を行い、個々に意見を聞く機会も作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の勤務状況、内容などの把握に努め、必要に応じて面談をするなど、向上心をもてるよう環境作りに努めている。研修の参加など。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に2回の力量評価を行い、一人一人の職員の力量に応じた研修に参加していけるように支援している。また、現場でも活かせるように伝達研修も本人にしてもらったりしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	洛和会の介護職全体の研修やGHの会議や研修など、交流の場を多く提供している。また、組織全体のサービスの質の向上を目指している。乙訓地域でのGH交流会にも参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご本人やご家族の要望を聞き取り、サービス内容に反映していけるよう努めている。また、安心して話していただけるよう信頼関係の構築を大切にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族などが困っておられること、心配なことには親身になってお応えするように努めている。また、その要望にそえるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスを薦めた前例はないが、面談をして、『もう少し家で見ます』と入居を考え直されたケースもある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、家事や外出などを共に行い、料理を教えていただいたり、おふくろの知恵を伝授していただいたり、共に生活を楽しんでいる		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご本人の様子をご報告し、ご家族の思いや希望を受け入れていけるよう努めている。またご本人と一緒に過ごされる時間を大切にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会を受け入れたり、家族の家に泊まりにいかれたり、ご家族の協力の下、墓参りや自宅に帰られる方もおられる	日々の会話の中で利用者から行きたい馴染みの場所があれば、家族と連絡をとり外出できるように支援しています。墓参りに出かけたり、自宅に帰り衣替えを利用者で行う等、入居前の馴染みの場所へ出かけています。行きつけの美容院を利用したり知った町並みを散歩するなどの支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が輪の中に入り、話を仲介したり、場の雰囲気を整えることで、会話が弾んだりしている。利用者同士でも、介助が必要な方えを他の利用者が手伝われたり、助けられることもある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後は関係を継続するのが難しくなってくるが、折にふれて関係性を断ち切らないように取り組んでいきたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や要望を、直接聞き取り、ケアプランに反映させ、日々の暮らしに取り入れていけるように努めている。センター方式のアセスメント分析シートを用い、出来る限りご本人の要望を把握していけるように努めている。家族からも意見を聞いている	日々の関わりの中で聞かれた言葉や行動を介護記録や連絡帳に記載し、情報を共有すると共にアセスメントに落とし込み本人の思いや意向の把握に繋げています。更にカンファレンスでは、様々な情報を基に話し合い検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談や、ご家族にセンター方式へのご協力をお願いし、その方その方の生活歴などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの低下や混乱、不安、体調不良など、各利用者の日々の様子観察に努め、変化が見られたときはケース記録や連絡帳で伝達、周知している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日常の様子からニーズ把握に努め、ご家族からも希望を聞いている。ケアプラン作成前にはカンファレンスも行い、より良いケアの提供の為に意見交換している	アセスメントや利用者・家族の意向を基に、ケアカンファレンスを開催し、介護計画が立てられています。カンファレンス開催に当たっては、訪問看護からの出席があったり、主治医からは事前に意見を聞いています。3か月ごとに評価し、変化の少ない利用者は6か月ごとに再アセスメントを行い、更新しています。利用者に変化のある時には随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫はケース記録や連絡帳に残すよう西、ミーティング以外にも、その都度職員が話し合い、情報共有に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	そのときその時の状態に応じた、柔軟なサービスの提供が出来るように心がけている。家族とも連絡を密に取り、相談している		

洛和グループホーム大山崎(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人のなじみの地域傾聴ボランティアさんの受け入れや、本の寄贈、消防訓練への参加など、地域の支えを大切にしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り、在宅時の主治医に往診をお願いしなじみの医師との関係を大切にしている。救急時も主治医の指示のもと、あらかじめご家族から希望のあった病院に運ぶように努めている	入居時に以前からのかかりつけ医を継続することを勧め、個々のかかりつけ医の往診を受けたり、家族が行けない時には受診の同行をする等のそれぞれに合わせた支援をしています。週に1回の訪問看護を受け、夜間も相談できるよう体制が整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師は居ないが、訪問看護とは医療連携を結び、日々の健康チェックや相談をお願いしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時は介護サマリー・看護サマリーで情報共有をし、出来る限り早急に退院できるよう、病院や家族との話し合いの場をもっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年度は2例の看取りケアを行った。また全利用者に入居時に看取りの指針について説明させていただいている。日々の生活の中での体調変化に伴い、段階を経て、家人や主治医とも話し合いの機会をもっている	入居時にホームの看取りの対応指針について説明し、同意を得ています。利用者の重度化が進む中で、看取りを行った経験もあり、段階に応じて家族や医師、職員等と話し合いを重ね取り組んでいます。個々の状態に合わせ、その利用者にとってどこで暮らすことが一番良いのかという視点で話し合い、支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法など、救命についての講習を受けたり、のどつめなどの対応も日頃から研修などで学び、実践できるように心構えをしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1度消防訓練を行い、災害に備えている。また、消防署の指導の下、地域の方にも訓練参加していただいている。地域の消火活動競技会にも参加している。大きな地震については今後訓練に入れていく予定。	2か月に1回ホームで避難誘導の確認や火災報知機の確認等の防災訓練を行い、年に2回は消防署の立会いの下避難訓練を行っています。近隣の住人にも声をかけ参加が得られたり、地域の小学校への避難の方法等に取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した言葉かけや対応を心がけ、また人格を尊重した関わり、言葉遣いをするよう努めている。また、職員同士注意しあえる関係も大切にしている	利用者は人生における先輩であり敬うことを基本とし、堅苦しくない家庭的な言葉遣いとなるよう心がけています。マナー研修を受講し、適切な対応を学び、職員間でも注意し合える関係が築かれています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	買い物や散歩、入浴など、希望されたときは出来る限り、その日、その時に対応できるようにしている。また、日常のあらゆる場面で選択肢を提示するよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビが見たい方、朝ゆっくり寝ていたい方、エレクトーンを演奏される方など、それぞれのご利用者のペースで生活していただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日その時、着たいものを選んでいただき、職員はさりげない調整を行っている。また化粧をされる方やパーマをあてる方もおり、おしゃれが楽しめるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が得意な方と一緒に食事を作ったり、食べたいものを聞き出したり、共に食べる楽しみを大切にしている。片付けも出来る方に一緒にしていただいている	食材の購入時には、広告を見て利用者に食べたい物を聞いたり、誕生日にはリクエストを聞き献立を決めています。ごま擦りや食材の皮むき等のごしらえ等の利用者のできることに携わってもらい、一緒に食事を作っています。職員は利用者と同じ食卓に着き、会話しながら楽しい食事の時間となるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方には水分摂取量をチェックしたり、体調などに応じて調整している。主食も米飯や粥形状など工夫し、水分が入りにくい方にはゼリーを作ったりしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きの言葉かけを行い、必要な方には介助している。訪問歯科による往診を受けている方も多い。		

洛和グループホーム大山崎(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介助が必要な方には、排泄表や記録を活かし、またご本人の訴えに応じて、出来る限りトイレでの排泄を支援し、またやむおえずオムツ対応が必要な方にも適宜交換を行い、不快な時間を減らすよう努めている	トイレでの排泄を基本として、排泄表を用いて個々のパターンを把握したり生活リズムから失敗のないよう支援しています。入院などでオムツを使用していた利用者も、徐々に失敗がなくなるよう支援し、紙パンツや布の下着に移行しながら自立に向けて取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分が入りにくい方は、とろみをつけたり工夫し、また毎朝朝食にヨーグルトを提供したり、おやつにも寒天を使ったりしている。また、散歩や運動の機会も持つよう心がけている。必要な方には医師の指示にて便薬の調整もしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方の希望に応じた時間帯や頻度に応じた対応をしている。菖蒲湯やゆず湯など季節に応じた入浴を楽しまれることもある。	個々の利用者の希望の時間帯を聞き、好みの時間に入浴してもらっています。以前は夜間に入浴を希望する利用者もおり、利用者自身で時間帯を決めることができるよう支援しています。入浴の嫌いな方は、声のかけ方や他の利用者に誘ってもらおう等気分良く入ってもらえるよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息を好まれる方は、お昼寝をしていただいたり、夜遅くまで起きてられる方にも無理やり寝て頂くのではなく、夜勤者が出来る限り寄り添い安心して眠りたくなるまで支援している(日中しんどくないか観察している)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各々の職員が薬情について確認し、効用や副作用について理解に努めている。症状の変化等を観察し、主治医に報告、指示を受けるようにしている。また確実に服薬できるように見守り、支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別外出で、行きたいところに出かけたり、誕生日には食べたいもの食べていただいたり、希望者にはお酒の提供もしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、外出など出来る限り、そのときに出かけられるよう支援している。職員の体制などで、その時の支援が困難なときは、本人に伝え、別の日を必ず設定したり、ご家族にお願いしたりしている	近隣への散歩や車で買い物に出かけるなど、日常的な外出支援を行っています。年に2回は家族を誘って一緒に外出や外食に出かけています。また、花見や紅葉狩りなどの季節を感じられる外出や、外食に出かけ楽しんでもらっています。	

洛和グループホーム大山崎(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によって、財布を自己管理されており、買い物などの機会にご自分でお支払いされたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	妹さんや知人に電話したり、手紙のやりとりをされている。番号をかけたり、ポストと一緒に入れにいたり支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾って季節感を感じられるよう工夫したり、消臭剤で不快な匂いをけしたり、心地よく過ごしていただける様に工夫している。テレビや音楽の音も調整している	玄関やリビングに季節の花を飾ったり、懐かしく感じられる家具や足踏みミシン等を置き落ち着ける雰囲気となっています。リビングにソファ、玄関先や階段を上がった踊り場にベンチを置いたり、食卓の間にパーテーションの設置など、少人数で過ごせるスペースを多く工夫をしています。廊下がなく広いリビングを中心に居室やトイレがあり、臭いなどが広がらないように消臭剤や換気に気を配っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは衝立やたんすを用い、出来る限り個別の空間を作れるよう工夫している。また、玄関先のベンチや2階の踊り場で過ごされるなど、のんびりできる空間の提供をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、ご自宅で使用されていたたんすや寝具、いすなど、なじみの家具を持ち込んでいただき、居心地の良いように工夫している	入居時に使い慣れた家具等を持って来てもらうように説明しています。たんすや机などを置き、家族の写真や好きな多くの花を飾られている方もいたり、趣味の編み物の道具や使っていた化粧ケース等を持って来られ、その人らしい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には、表札を掲げていただき、また本人の好きな色や柄の暖簾をつるすなど、ご自分の部屋を認識しやすいよう工夫している。またお部屋で自身の洗濯物を干される方もおり、その方々の暮らしに応じて支援している		